（二）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十九年一月二十九日　（土曜日）　臺灣日日新報　第一万五千七百七十四號　（一）

敵百廿五機撃墜熾烈

ラバウルの空戰

【東京發至急報】大本營發表（昭和十九年一月二十八日十六時）

一、帝國海軍航空部隊並に陸海軍守備隊は一月二十四日午前ラバウルに來襲せる敵機約八十機を邀撃し、その二十四機（內不確實八機）を撃墜せり

我方の損害は飛行機二機沈沒せる外損害なし

二、帝國海軍航空部隊並に陸海軍守備部隊は一月二十六日午前ラバウルに來襲せる敵機約二百機を邀撃し、その六十七機（內不確實十八機）を撃墜せり

我方未歸還六機を出せる外地上において若干の損害あり

三、帝國海軍航空部隊は一月二十七日午前ラバウルに來襲せる敵機約百五十機を邀撃しその三十四機（內不確實十一機）を撃墜せり

我方の損害未歸還六機

來襲機二千二百七十

元旦以來ラバウル邀撃敵機延數

【東京發至急報】一日來二十七日までラバウルに來襲せる敵機延數は二千二百七十八機であり之の內わが邀撃戰鬪機隊は二千二百七十五機を撃墜破したことは既報の通りであるが、更に一日來二十八日までの間に於ける敵機の來襲は僅かに二機に過ぎず、之等の敵機は何れも我が邀撃戰鬪機隊の攻撃を受けて避退せるものである、今回わが邀撃戰鬪機隊は敵機の來襲に對し連日連夜出動邀撃に當つたが、その間敵機の來襲は一月二十三日に集中し、二十三日一日來の敵機は百八十機であつた、なほ敵機の

六百四十五機を撃墜

【東京發至急報】帝國陸海軍航空部隊は昨年十二月八日以來本日までわがラバウルの攻略作戰に關聯し「ヒ」から撃墜せんとする延四千二百八十機に對しその六割に當る二千六百四十五機を撃墜破しがラバウルを攻略し、これを基地とする敵航空部隊の殲滅に決定的な役割を果したことは既報の通りであるが、更に一月二十八日までの間に於ける敵機の來襲に對しても同方面の敵航空部隊に對し徹底的な撃滅を加へ敵機の來襲を封殺し之等敵機の撃墜破數は二千八百十五機に達した

月日	撃墜破	我が方	月日	撃墜破	我が方
十四日	二六	九	廿一日	三	〇
十五日	約一〇〇	一〇	廿二日	二	二
十八日	約一一〇	五	廿三日	二	一
十九日	約一五〇	六	廿四日	〇	一
廿日	約一三〇	四	廿六日	一	〇
廿一日	約一五〇	六	廿七日	約一〇〇	六
廿二日	約一三〇	四	廿八日	約一五〇	六
廿三日	約一五〇	六	廿九日	約二二八	六
廿四日	約一〇〇	一	三十日	四	七
廿六日	約一〇〇	六	三十一日	約一〇〇	一〇
廿七日	約一〇〇	六	一日	約一〇〇	一〇
廿八日	約一三〇	四	二日	約一五〇	一一
廿九日	約一五〇	五	三日	約一〇〇	一四
三十日	約一〇〇	四	四日	約一〇〇	六
三十一日	約一〇〇	一	五日	約一〇〇	一四
一日	約一〇〇	一	六日	約一〇〇	六
二日	約一〇〇	一	七日	約一〇〇	一四
三日	約一〇〇	一	八日	約一〇〇	六
四日	約一〇〇	一	九日	約一〇〇	一四
五日	約一〇〇	一	十日	約一〇〇	六
六日	約一〇〇	一	十一日	約一〇〇	一四
七日	約一〇〇	一	十二日	約一〇〇	六
八日	約一〇〇	一	十三日	約一〇〇	一四
九日	約一〇〇	一	十四日	約一〇〇	六
十日	約一〇〇	一	十五日	約一〇〇	一四
十一日	約一〇〇	一	十六日	約一〇〇	六
十二日	約一〇〇	一	十七日	約一〇〇	一四
十三日	約一〇〇	一	十八日	約一〇〇	六
十四日	約一〇〇	一	十九日	約一〇〇	一四
十五日	約一〇〇	一	二十日	約一〇〇	六
十六日	約一〇〇	一	二十一日	約一〇〇	一四
十七日	約一〇〇	一	二十二日	約一〇〇	六
十八日	約一〇〇	一	二十三日	約一〇〇	一四
十九日	約一〇〇	一	二十四日	約一〇〇	六
二十日	約一〇〇	一	二十五日	約一〇〇	一四
二十一日	約一〇〇	一	二十六日	約一〇〇	六
二十二日	約一〇〇	一	二十七日	約一〇〇	一四
二十三日	約一〇〇	一	二十八日	約一〇〇	六
二十四日	約一〇〇	一	二十九日	約一〇〇	一四
二十五日	約一〇〇	一	三十日	約一〇〇	六
二十六日	約一〇〇	一	三十一日	約一〇〇	一四
二十七日	約一〇〇	一	一日	約一〇〇	六
二十八日	約一〇〇	一	二日	約一〇〇	一四
二十九日	約一〇〇	一	三日	約一〇〇	六
三十日	約一〇〇	一	四日	約一〇〇	一四
三十一日	約一〇〇	一	五日	約一〇〇	六
一日	約一〇〇	一	六日	約一〇〇	一四
二日	約一〇〇	一	七日	約一〇〇	六
三日	約一〇〇	一	八日	約一〇〇	一四
四日	約一〇〇	一	九日	約一〇〇	六
五日	約一〇〇	一	十日	約一〇〇	一四
六日	約一〇〇	一	十一日	約一〇〇	六
七日	約一〇〇	一	十二日	約一〇〇	一四
八日	約一〇〇	一	十三日	約一〇〇	六
九日	約一〇〇	一	十四日	約一〇〇	一四
十日	約一〇〇	一	十五日	約一〇〇	六
十一日	約一〇〇	一	十六日	約一〇〇	一四
十二日	約一〇〇	一	十七日	約一〇〇	六
十三日	約一〇〇	一	十八日	約一〇〇	一四
十四日	約一〇〇	一	十九日	約一〇〇	六
十五日	約一〇〇	一	二十日	約一〇〇	一四
十六日	約一〇〇	一	二十一日	約一〇〇	六
十七日	約一〇〇	一	二十二日	約一〇〇	一四
十八日	約一〇〇	一	二十三日	約一〇〇	六
十九日	約一〇〇	一	二十四日	約一〇〇	一四
二十日	約一〇〇	一	二十五日	約一〇〇	六
二十一日	約一〇〇	一	二十六日	約一〇〇	一四
二十二日	約一〇〇	一	二十七日	約一〇〇	六
二十三日	約一〇〇	一	二十八日	約一〇〇	一四
二十四日	約一〇〇	一	二十九日	約一〇〇	六
二十五日	約一〇〇	一	三十日	約一〇〇	一四
二十六日	約一〇〇	一	三十一日	約一〇〇	六
二十七日	約一〇〇	一	一日	約一〇〇	一四
二十八日	約一〇〇	一	二日	約一〇〇	六
二十九日	約一〇〇	一	三日	約一〇〇	一四
三十日	約一〇〇	一

社説

亜國風伏と米外交破綻

アルゼンチン国内に於ける親枢軸的勢力の一掃と、それに伴ふ米国の対亜外交の破綻とは、今次汎米会議に於ける最も重要な収穫であつた。ブラジルと共に、米国に於ける親枢軸の橋頭堡として、米国がこれまで最も重視してゐたアルゼンチンが、米国の対亜外交の破綻によつて、米国に対する敵対的な態度を明瞭にしたことは、米国にとつて、ブラジルの場合以上に大きな打撃であり、米国の対亜外交の破綻を決定的なものとするものである。

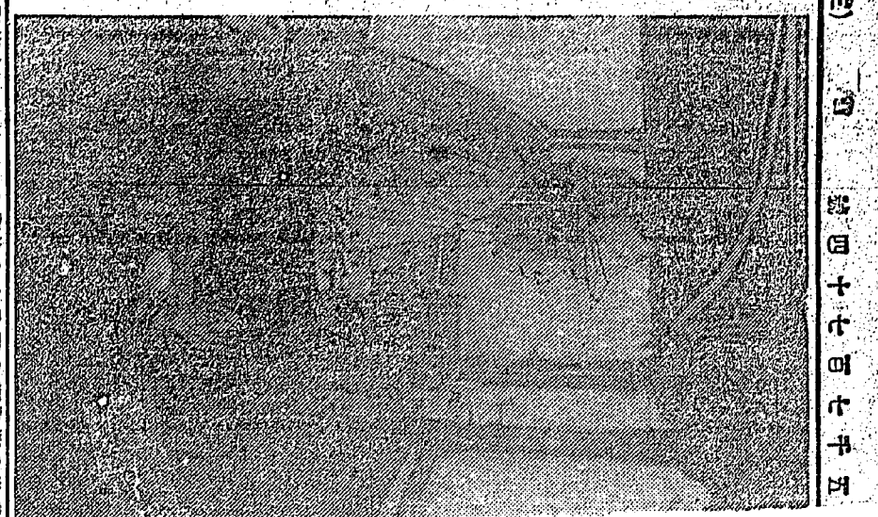
これは現大統領ペドロ・ラミレスと、その背後の軍部とに対する、国民大衆の不信任の表明であり、国民大衆の支持を失つた政府が、如何に強圧的な手段を以てしても、その存立を維持し得ないことは、歴史の教訓するところである。

ラミレス政府は、昨年六月の軍事革命によつて成立したものであるが、国民大衆の支持を得ることに努めるどころか、ますます国民大衆から遊離し、国民大衆の敵意を挑発することによつて、その存立を維持しようとしてきた。

◇

ラミレス政府の対外政策は、国民大衆の意向を無視して、枢軸寄りの中立政策を強行し、ブエノスアイレス市民の大規模な反枢軸デモンストレーションを弾圧

戰勢擴大に備へ、陸上の強化重点



本島防衛態勢の强化

重要施策を協議

きのふ大本営陸軍部會議

決戰の大空に散らん

必勝の信念に燃ゆる陸鷲の面魂

陸鷲志願に決意は固し

必勝增産へ體當り

戰勢一段と躍進に輝く戰果

敵前で修理作業

悠々アラビヤ沿岸に敵油槽船屢〻わが新鋭潜水艦の制壓に

書籍出版會新發足

役員改選で近く第一回總會

新に國民兵役に服する者

服役區劃（兵事）を知れ

治療は早く專門醫へ

國民兵

（廣告）

◇愛國西國螺號◇

二十五名で二機

女子農業挺身隊生る

"農本"を強く心掛けませう

今ぞ生く民臣の道

皇奉基準實踐

食糧增産、健民強兵

農業會の統一的意義

流言蜚語、早期探知

防諜聯盟で對策を强化

日本人に生れた誇りと

皇軍たるの光榮を忘るな

簡易飛行場を獻納

資金早くも十二萬圓に達す

無より有への建設戰

地下資源開發の新竹州

十九年度豫算編成方針

學校切換に十萬圓

農業專修校設立後援會

榮光燦たる傷兵の母

行け、看護助手を募集

體力增進、志氣昂揚

前期訓練生を軍事訓練

決戰警察官の教養

一段と强化錬成を行ふ

椰子

海野十三作　村上松次郎繪

決戰の砲火

戰爭と女性を描く感動篇！

大映野心作　野淵昶演出

ゴム底運動靴　修繕
甲種安全ナレバドンナ重作業ニモ耐エマス
翼製造機械應用　巴商會製靴工場
臺北市榮町二丁目六八番

奉公たわし　許特
臺北市榮町二丁目
東子製造株式會社

賣買施行　壁ノ友
臺北市榮町二丁目
野田商行

ラジオ　修理
ラジオとレコード
臺北市榮町二丁目八番地
和音電氣商會

引越運送　引越
臺北市榮町二丁目
陸上運送店

古本賣買　古本のせ
臺北市榮町二丁目
植木商會

萬適　染色、整理、漂白
臺北市榮町二丁目
萬適染工場

洋傘修理　洋傘
臺北市榮町二丁目
洋傘修理所

愛國婦人會　愛國バンド
臺北市榮町二丁目
防空用品

豆炭　豆炭
臺北市榮町二丁目
電池商會

電池　電池
臺北市榮町二丁目
HS商會

しんぞう病　心臓病特効藥
臺北市榮町二丁目
ダイビタミンA

洋傘修理　洋傘
臺北市榮町二丁目
洋傘修理所

補三　補三
臺北市榮町二丁目
補三商會

洋傘修理　洋傘
臺北市榮町二丁目
洋傘修理所

補三　補三
臺北市榮町二丁目
補三商會

洋裁　洋裁
臺北市榮町二丁目
洋裁學校

寫眞　寫眞
臺北市榮町二丁目
小山商會

洋服　洋服
臺北市榮町二丁目
洋服店

女子　女子
臺北市榮町二丁目
女子商會

上女　上女
臺北市榮町二丁目
上女商會

乳兒　乳兒
臺北市榮町二丁目
乳兒商會

貸家　貸家
臺北市榮町二丁目
貸家商會

補三　補三
臺北市榮町二丁目
補三商會

諸店　諸店
臺北市榮町二丁目
諸店商會

公用　公用
臺北市榮町二丁目
公用商會

賣家　賣家
臺北市榮町二丁目
賣家商會

家交　家交
臺北市榮町二丁目
家交商會

貸間　貸間
臺北市榮町二丁目
貸間商會

賣電　賣電
臺北市榮町二丁目
賣電商會

結婚　結婚
臺北市榮町二丁目
結婚商會

洋裁　洋裁
臺北市榮町二丁目
洋裁學校

ゴム底運動靴　修繕
臺北市榮町二丁目
巴商會製靴工場

奉公たわし　許特
臺北市榮町二丁目
東子製造株式會社

賣買施行　壁ノ友
臺北市榮町二丁目
野田商行

夕刊 臺灣日日新報 第一万五千七百七十四號 昭和十九年一月二十九日（土曜日）（第二種）

海鷲敵舟艇群を急襲

マーカス岬 海上トラック撃破

ナウル來襲機を撃退

笑止 敵機空中衝突

敵屍、俘虜七百八十

支那派遣軍週間戦況

病院船を又復爆撃

敵の暴虐に鐵槌下らん

海外挺身建設戰士

援護資金制度設置

衆議院から近く建議案提出

總豫算衆院を通過

十八年度總收繭高

國防大學新設

未だ考慮せぬ

我巧妙な待機作戰

米の海軍少將指摘

獨ソ慘愴なる死闘

レニングラード西南

増産へ官民の奮起

高橋氏 篤農家の創意を倣へ

代議士に今議會を聽く

印度政治犯一萬五千

榮養量は絶對確保

企業國營考慮せず

驅艦四、船七を撃沈

獨潜艦敵船團を襲撃

米英、スペイン壓迫

遂に石油積出を禁止

亞國内閣は危機

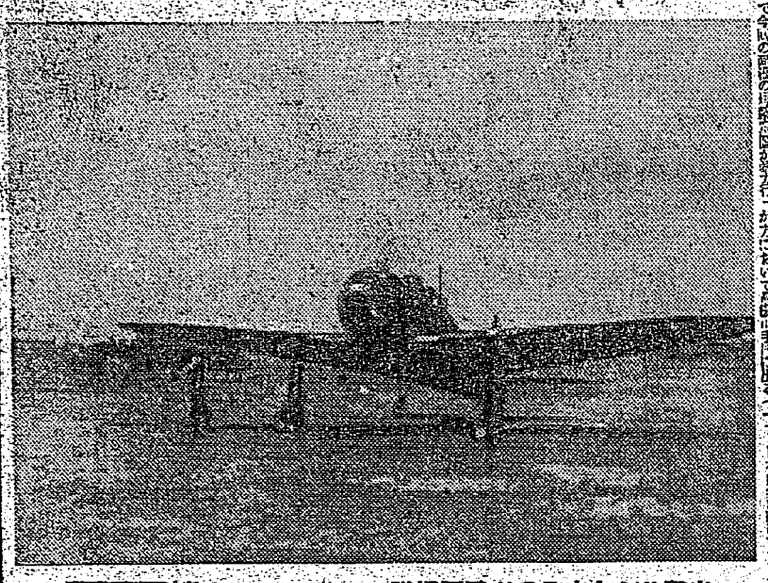
西相ら三相突如辭職

日獨斷交を通告

赤軍の急速進撃は困難

獨軍砲九九を鹵獲

イタリア戰況



出撃せんとする我が戰闘機隊 南太平洋〇〇基地（陸軍省提供）

冒涜・光脈
扁桃腺炎・肋膜炎に
戰ふ白血球
自血球はその他一般發熱時に
三十分濕布藥
ワイラモルデ
日本醫藥品工業株式會社

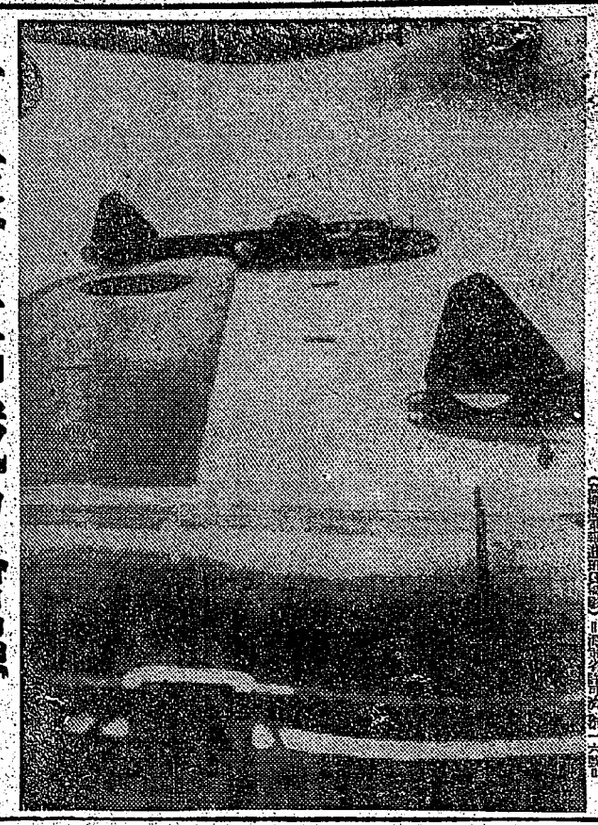
小兒感冒の流行期！
肺炎にならぬよう
良藥で幼兒の健康を
小兒專門藥
丸龍當屋種
感冒肺炎其の他一般發熱時に
カンムシ、夜啼不眠、乳吐き
下痢胃腸、消化不良、虚弱兒
大阪化學藥品製造所
株式會社

一品で乳液
クリームの
作用をする
手間のかからぬ肌の榮養藥
ホルモンの美肌力と殺菌劑の淨化作用とをもつ無油性
クラブホルモン
大阪・東京
株式會社

女性も皆働
ホルモン
に元氣で働きませう！
女性生理の障り、不順
生理痛、頭痛、腰痛等に
は強力な女性ホルモン作
用を發揮するエステロンの内服を！
製法特許・強力女性ホルモン
エステロン
大阪・品川 田邊製藥株式會社

石炭増産 即戦力増強

消費節約で協力せよ



海鷲印度カルカッタ爆撃行　カルカッタに巨弾投下

（海軍省發表＝昨二十八日午後六時）

島都防空群審査の成果 (二)

群長の責任重大

審査員、防空群長の感想

警防團防護群分團副分團長　審査員　杉崎良蔵氏談

好成績の裡に終る

「戦力増強皆勞週間」

炭礦の出炭量著増

方面精神を磨く

ひたむきな修錬

方面委員代表者錬成會終る

拓け行く ボルネオの心臓部

邦人、原住民の協力着々擧る建設の成果

苦闘で綴る建設戦史、稔る穀倉と地下資源

建設だけが楽しみ

芝山巌祭を前に六氏先生を偲ぶ

往時の愛弟子三田揩氏

飛行場獻納の寄附

市民赤誠の醵出は続く

燈火用乾電池

配給暫定指置

仕奉の身のひしめ

陸軍病院 按摩慰問

院長から感謝状

日本の癌（腐蝕病・破壊菌）

性病（梅毒）の悩みに回春寶門湯

修行（連載小説）

（65）　村松梢風作　中一彌畫